

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名：大塚 まり 所属：東村山市立萩山小学校 記録日：2022年 2月 25日
キーワード：心理的な安定、自己肯定感、学習意欲、書きの困難の補助、持ち物の管理

【対象児の情報】

○学年：小学5年生

○障害名：ADHD、ASD

○障害と困難の内容

- ・環境の変化や見通しが立たないことへの不安感が強い。
- ・学習への意欲は強いが、他者からの評価や言葉が気になり自信がもてない。
- ・書くことへの苦手意識が強い。
- ・持ち物の管理や整理整頓することが難しい。

・使用した機器に

Pad iPhone watch Chromebook AIスピーカー Pepper

※Chromebookは市教育委員会より貸与されたもの。

【活動目的】

○当初のねらい

- ①自分を傷つけたり自分を責めたりする行為を軽減できるように、気持ちの安定を図り、学校生活の自信につなげる。
- ②特性に応じた学び方の定着を図り、学習に対する意欲や自信につなげる。
- ③自分に合った持ち物の管理方法や片付けの仕方を見つけ、必要なもの自分で管理できるようにする。

○実施期間 2021年4月～2022年2月現在

○実施者 大塚 まり

○実施者と対象児の関係 特別支援学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・昨年度まで通常学級在籍。
- ・特別支援教室に小学1年10月から通い、昨年度は週3時間指導を受けていた。(小集団指導2時間、個別指導2時間)
- ・今年度から自閉症・情緒障害特別支援学級に転籍している。

学習面

- ・当該学年の学習は理解できるが、書くことが苦手である。特に漢字や作文、板書への苦手意識は強い。
- ・書くことに対して「自分の字が汚いから書いて残したくない。」と話す。
- ・関心のある学習内容は、意欲的で発表することもある。
- ・苦手な学習では、「今まで授業に参加できていないから分からない。できない。」と話し、自傷行為(頭をたたく)がある。
- ・テストで点数はとれるが、ノート・プリント等・宿題等提出物が出せない。自分の考えや自分の字を見られたくないと話す。
- ・3年生2学期から月2回プログラミング教室に通っている。プログラミングに関心があり、在籍学級でもタブレットを使ってプログラミングをすることを好む。
- ・タブレットの操作方法を教えるとすぐに覚え、慣れることが早い。
- ・タブレットでキーボードを使った文字入力(ひらがな入力)に時間はかかる。

- ・1学期当初、学校用 Chromebook は使いにくいと話し、必要な時（クラスルーム等）のみ使用し、iPad mini を使うことが多い。

行動面

- ・環境の変化や見通しの立たない活動への不安が強い。（特に運動会や音楽会、遠足や社会科見学等）
- ・昨年度まで教室で授業に参加できていない、提出物が出せないことに対して「どうせ私はダメだから。」「私がいなくなればいい。」と、常に自分を責めている。
- ・2年生までは教室から飛び出すと校庭・図書室・空き教室等様々な場所で過ごしていたが、3年生からは空き教室に居場所ができた。
- ・現在はクラスで8～9割過ごすことができています。本人も「特別支援教室の小集団は大丈夫だったから、特別支援学級にしてよかった。」「授業に出られて楽しい。」と話す。
- ・特別支援学級の中に攻撃性の強い児童が在籍していて、その児童からの暴言等に落ち着かなくなり、教室を飛び出すことはある。
- ・「クールダウンしてきます。」と担任に伝えられることも増え、教室近くの自分の好きなコーナーでクールダウンしている。
- ・整理整頓が苦手で、机の周りや空き教室は対象児のもので散らかっていることが多い。「片付け方が分からない。」と困っている気持ちを担任に話すことがある。

○活動の具体的内容と対象児の事後の変化

①自分を傷つけたり自分を責めたりする行為を軽減できるように、気持ちの安定を図り、学校生活への自信につなげる。

ねらい	活動内容	対象児の変化（◇変化 ◆課題）
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝え、他者と安心して気持ちを共有する。 	<p>○担任に気持ちや考えを表出する。 （学校のこと、家のこと、好きなこと等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1～2回、相談・トークタイムを設定し、話をする。 ・『By Talk for School』（1学期） ・『DropStep+ByTalk』（2学期以降）  	<p>◇担任と毎日話をし、さらに週1～2回各20分程度相談・トークタイムを設定することで安心して過ごすことが増えた。（特に対象児の好きなことを話題に話すと落ち着いて過ごせている。）</p> <p>◆直接話すことが増えたため『By Talk for School』『DropStep+ByTalk』の活用は減った。</p> <p>⇒2学期以降は、対象児の様子について保護者と連絡・相談する際に活用した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で気持ちを落ち着かせることができるように、落ち着ける場所や過ごし方を身に付ける。 	<p>○過ごしやすい場所・教室を相談して見つける。</p>   <p>▲2学期の教室</p>	<p>◇2学期</p> <p>窓側の席で窓側を向いて学習に取り組むことで、周囲からの刺激が軽減され、集中して課題に取り組めて、教室から飛び出すことも軽減した。</p> <p>⇒特定の友達との関わりから、不安が強くなり、落ち着ける場所について相談する。</p>

	 <p>◀3学期の教室</p>	<p>◇3学期</p> <p>6年生の教室で過ごす。2～3名の少人数の教室に落ち着いて過ごせ、友達と遊ぶ・会話する様子が増えている。</p> <p>※2学期まで用意していたクールダウンの教室・場所で過ごすことはほとんどない。</p>
<p>・担任や保護者以外の他者に考えや気持ちを伝え共有する。</p>	<p>○大学院生と『zoom』を使った相談会を行う。</p> <p>【相談内容】</p> <p>1学期 「自主研究」</p> <p>2学期以降 自分のこと、マイブーム 大学院生のこと等</p>   <p>▲「自主研究」相談の様子（1学期）</p>  <p>◀「マインドマップ」を画面共有している様子。（2学期）</p>	<p>◇大学院生との相談会を楽しみにし、「自主研究」の相談をすることができた。</p> <p>◇「自主研究」に対しても意欲的で、『Key note』『スライド』で研究内容をまとめ、相談することができた。</p> <p>◇2学期以降は、自分のこと、ゲームのこと等、他愛もない話を楽しみ、「大学院生さんと私のヒミツの話」と嬉しそうに報告することもあった。</p> <p>◇対象児は、zoomでのやりとりは、対面でのやりとりよりも相手を意識して不安を感じる事が少なく自然に関われた。</p> <p>◆zoomでのやりとりであったため、相手を意識することが難しく、ごっこ遊び・一人遊びを一人で楽しむ様子も見られた。</p>  <p>▲ごっこ遊びを始める様子（1学期）</p>

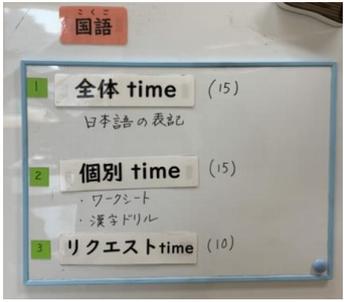
※自主研究の変容

	テーマ・スライド	研究の様子
<p>第1回</p>	<p>「お菓子」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談会が始まる前の自主研究。 ・テーマは決まったが、スライドにまとめることができなかった。 ・「何もできません。みんなに（研究）発表したくありませんから。」
<p>第2回</p> 	<p>「クッキー」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談会が始まってからの自主研究。 ・大学院生とテーマを決めることから相談。 ・「私、パワポとかでまとめるの得意です。」と話し、相談しながら『Keynote』でスライドをまとめる。 ・友達にも研究を発表することができた。（GoogleMeetの画面共有で）

<p>夏の自主研究</p> 	<p>「発達障害について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中の課題。 ・テーマを自分で決め、スライドにまとめる。 ・GoogleMeet 画面共有で友達に発表する。 ・教員に発表する場面を設定し、嬉しそうに発表する。
---	-------------------	--

☆2学期以降は、「自主研究」のスライドを自分から作成し、友達に発表することにも抵抗なくできるようになった。
 テーマ:「お金の使い方」

②特性に応じた学び方の定着を図り、学習に対する意欲や自信につなげる。

ねらい	活動内容	対象児の変化 (◇変化 ◆課題)
<p>・見通しをもって安心して教室で学習に向かう。</p>	<p>○45分間の授業の流れをホワイトボードで提示する。</p>  <p>○個別学習時間を設定し、学習アプリを使って学習を進める。</p> <p>【使用学習アプリ】</p> 	<p>◇1学期は学級全体用にホワイトボードで授業の流れを意識することが難しかった。2学期になり、担任が予定を書き忘れると、「先生、個別はいつからですか？」と質問することが増え、授業の流れを確認していることが分かった。</p> <p>※クラス全体にも授業の流れが提示されていることで安心につながった。</p> <p>◇個別学習時間があること、自分のペースで学習を進めることで、落ち着いて学習に取り組むことができ、教室で学習を進めることができています。</p>
<p>・「書くこと」への抵抗を軽減する。</p>	<p>○学習内容をワークシート（紙）でまとめる。</p> <p>○Chromebookの『classroom』を活用し、学習の振り返りや学習内容の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『classroom』『ドキュメント』 ・『form』 ・『スライド』 	<p>◆ワークシートに直接書き込む、『GoodNotes』を活用してワークシートの画像に文字入力をする方法へは抵抗があり、取り組むことが難しかった。</p> <p>◇Chromebook「ドキュメント」「Foam」を活用した学習内容のまとめや確認は取り組みやすいようで、自主的に取り組み、提出できることが増えた。</p>

1) 教科書P216・217を読み、下の表に文字についてまとめましょう。

漢字のように、一字一字が意味を表すような文字のこと	表意文字
仮名のように、意味を表さず音だけを表す文字のこと	表音文字

2) 漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字は、表意文字 と 表音文字 どちらですか？
下の表に 書きましょう。

表意文字	漢字
表音文字	ひらがな、カタカナ、ローマ字

3) 「小山」や「清水」は、2つの読み方が考えられます。▼
それぞれ、2つの読み方を 考えて書きましょう。

小山	おやま	こやま
清水	せいすい、きよみず	しみず

4) P217【1】の 俳句（ ひらがな/カタカナ/漢字 ）の3つのうち、
読みやすいものを選びましょう。選んだ理由を 教えてください。

読みやすい俳句は？	漢字
選んだ理由	ニュアンスや意味で思いが伝わるから

5) 漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字（またはアルファベット）の4種類の文字の
中で、好きな文字を選びましょう。選んだ理由を 教えてください。

好きな文字	漢字
選んだ理由	奥が深いから

▲ワークシート（国語）



◀スライド作り(国語)



▼作ったスライド▼



・苦手な「漢字」
の学習への抵抗を軽減する。

○個別学習時間に『国語海賊～小学漢字の海～』に取り組む。



○宿題の漢字ドリルの取り組み方を変える。

「たくさん書く」から「形を覚えながら、決めた数だけ漢字を書く」に。

○漢字50問テスト前に、プレテストでテストに出る漢字を確認する。

◇国語の授業中だけでなく、休み時間にも『国語海賊』には意欲的に取り組む様子が増えている。

◇書く文字数を減らしたことで、ドリルを使った漢字の取り組みへの抵抗が軽減した。



◇漢字プレテスト後に漢字テストをし、全問正解だったことが自信につながっている。
(漢字の宿題や学習に落ち着いて取り組むことができている。)

③自分に合った持ち物の管理方法や片付けの仕方を見つけ、必要なものを自分で管理できるようにする。

ねらい	活動内容	対象児の変化（◇変化 ◆課題）
<p>・自分に合った片付けの仕方を見つける。</p>	<p>○<u>自立活動の時間に「自分研究タイム」を設定する。(週1回)</u></p> <p>①「すみっこぐらしのおかたづけ」本で自分のタイプを調べ、タイプに合った片づけ方を確認する。</p> <p>②「すみっこぐらしのおかたづけ」や『YouTube』で収納術を確認し、できそうな方法を試す。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 20px;">   </div>	<p>◇「自分研究タイム」で片付けが苦手な理由を確認し、自分に合った片付け方法を試すことができた。</p> <p>◆「ためこみ」タイプで、ものをため込んでしまうため、片付けに時間がかかってしまう。そのため「片付け＝疲れる」イメージがあり、片付けに気持ちが向かないこともあった。 ⇒ため込む前に片付けることで、「片付け＝疲れる」イメージを軽減する。</p> <div style="text-align: center;">  </div>
<p>・片付けることを習慣化し、片付いた状態を維持する。</p>	<p>○<u>教科書・ノート、その他の教材の保管場所を決めておく。</u></p> <p>○<u>毎日「片付けタイム」を設定する。</u></p> <p>1学期 下校前</p> <p>2・3学期 掃除後または5校時後</p> <p>①ランドセルにしまうもの、お道具箱に入れるものに分け、それぞれの場所にしまう。</p> <p>②片付いた状態を撮影し『Photomemes』に記録する。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 20px;">   </div>	<p>◇片付けることを面倒に感じる様子があったが、自席から近い場所にロッカーや教科書等保管場所を用意することで、その都度片づけることが増えている。</p> <p>◇道具箱にもものをためてしまう様子があったが、道具箱の所定の位置をロッカーにすることで、ロッカー内で納めるようになっている。</p> <p>◇1学期は、下校前は帰ることに意識が向き、自分で片付けることが難しかったが、2学期は「片付けタイム」を下校直前から、掃除時間後または5校時後にすることで、焦ることなく、自分のペースで片づけることが増えた。 ※片付いた状態の記録を9・10月記録していたが、2学期後半からは記録しなくても片付いた状態にすることが定着している。</p> <div style="text-align: center;">  </div>

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき・エビデンス(具体的数値など)

◇安心できる環境ができたことで、学習への意欲が高まっている。

⇒「できない。」「どうせやっても無理だから…。」から「授業が楽しい。」「できると思う。」に変化。

【対象児の GoogleFoam アンケートより】

特別支援学級になって学習しやすくなりましたか？	とてもそう思う。
特別支援学級になってできるようになったことが増えましたか？	とてもそう思う。
特別支援学級になって、学校・授業など楽しいと感じたり、不安が減ったりしましたか？	そう思う。
特別支援学級になって、授業に参加したいと思うようになりましたか？	とてもそう思う。
今後も特別支援学級または少人数の教室で学習したいですか？	とてもそう思う。
特別支援学級になって、楽しい・よかったと思うことは？	授業が楽しい。

◇ICT (iPad・Chromebook) の活用が、学習への意欲につながっている。

⇒「書けない。」「発表できない…。」から「調べたりまとめたりできる。」「意見を伝える場がある。」に変化。

【対象児の GoogleFoam アンケートより】

iPad・Chromebook を使うようになって学習しやすくなりましたか？	とてもそう思う。
iPad・Chromebook を使うようになって、できるようになったことが増えましたか？	そう思う。
iPad・Chromebook を使うようになって、学校・授業など楽しいと感じたり、不安が減ったりしましたか？	そう思う。
iPad・Chromebook を使うようになって、授業に参加したいと思うようになりましたか？	とてもそう思う。
今後も iPad・Chromebook を使って学習したいですか？	とてもそう思う。

【対象児の GoogleFoam アンケート(記述式)より】

iPad を使ってよかったことは？	調べ物やまとめることがしやすい。学習しやすい。
Chromebook を使ってよかったことは？	道徳が参加しやすい。※

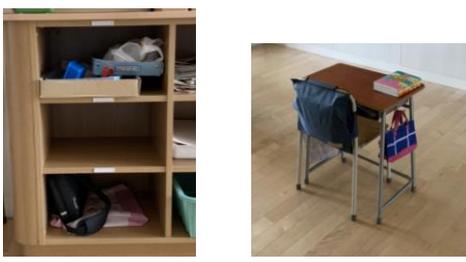
※道徳の授業について

- ・自分の考えと異なる意見に対して攻撃的な児童や、自分の考えを直接発表することに不安を感じている児童がいる。そのため、一部の児童による発言や口論になることが多い。
- ・道徳での発言の仕方について、Chromebook「classroom」のストリームを活用して、担任が発問を提示。それに対する意見をコメント欄に打ち込んで意見交換する方法をとっている。

道徳授業での対象児の変化

- 1 学期： 友達のコメントを読み、自身の考えを教師に伝える。
- 2 学期： 友達のコメントを読み、自身の考えをコメントする。
- 2学期後半～： 自分の考えをコメントする。友達の考えを読み、自身の考えを変えたり、友達の意見にコメントしたりすることも。

◇時間・空間に余裕があることで、決まった量の持ち物の管理につながっている。

6月～11月	12月～現在	変化(時間・空間)
		<p>【空間】 以前机の前に道具箱を置くスペースを用意。 ⇒スペースに道具が置ききれない時、机に道具が広がることも… 現在ロッカー上段のみ道具箱用スペースに。 ⇒ロッカーの中に入っていればOK!が対象児に分かりやすく、机の上に道具箱のものが広がることはほとんどない。</p> <p>【時間】 以前下校時に帰りの支度・片付けをする。 ⇒下校間際の片付けはイライラの原因に。 現在5校時後、帰りの支度・片付けをする。 ⇒時間的な余裕から焦ることが少なくなる。</p>

◆安心できる環境を維持することの難しさがあった。

・学級の友達との関係から安心できる環境が不安に変わることがあり、安心できる環境を維持し続けることが難しかった。対象児の気持ちを保護者がすぐに受け止め、『DropStep+ByTalk』で保護者とやりとりできたことで、すぐに安心できる環境の立て直しに向けて対応することができた。

○その他エピソード(画像などを含めて)

◇得意プログラミングでミニ先生に!

・12月から6年生の教室で過ごすことが多くなり、6年生理科のプログラミング学習に参加することがあった。プログラミングは得意で、意欲的にscratchやmicro:bitを操作。6年生の友達が困っていると、操作を教えてあげ、一緒に協力して操作する場面が見られた。学習での友達との関わりから日常生活での友達との関わり(休み時間に遊んだり話をしたり)に広がっている。

◇苦手な清掃活動が当たり前の活動に!

・昼休み後の清掃活動時間が苦手だった対象児。1学期前半は、清掃活動時間になるといつの間にかいなくなり、図書室や階段で読書に浸っていることもあった。清掃活動での役割分担と清掃の手順を明確にすることで、自分でできる担当を選び、清掃活動に最後まで取り組めるようになった。現在は、休み時間から清掃活動への切り替えができれば、自分から清掃活動に取り組み、友達と協力して作業するようになっている。